



① 動画「あたりまえ認定～こころのアラーム」>

第3学年 学級活動2(ウ)

※ 保健と関連させると良い。

活動前
の

導入

展開

終末

学習活動

- 友だちとふれあって遊んだ経験や、その時の気持ちについてアンケートをとる。
(おんぶや抱っこ、おしくらまんじゅうなど)

- アンケート結果をもとに、ふれあいに対する「うれしい」「楽しい」という回答について、具体的にたずねる。
- 「イヤだ」という回答について、具体的に理由を考える。

今日は、友だちにさわってほしくないときには、
どうしたらいいか、について考えてみよう

- 同じように悩んでいるみーっていう子のお話を見てみよう。

① 動画シーン①視聴(～36秒)

- 同じ「むにむにあそび」に対して、登場人物によって受け止め方が違うことを確認する。

② 動画シーン②視聴(36秒～2分5秒)

動画に出てきた「心のアラーム」ってなんだろうね？

対話 その学級なりの言葉にする

ワークシート①②を記入する。

対話 具体的な心のアラームが鳴る場合と
その対処について、それぞれの意見を共有する

心のアラームが鳴ったとき、
みーはどうしたのか見てみよう

③④ 動画シーン③④視聴(2分5秒～最後)

- みーが自分の気持ちに気づいて伝えたことで、初めて友だちがみーの気持ちに気づいたことを確認する。

心のアラームが鳴ったとき、相手に伝えるべきか

話し合い 学級での解決策を考える
● 言いづらいのはどんな時か具体的に挙げて考える
● 動画を参照し、伝え方についても考える
● 伝えられたときの受け止め方も考える

話し合いの結果をふまえて、自己目標を考える。
ワークシート③を記入する。

指導上の留意点

- 前ページの「子どもの様子」にあがっている問題が学級内にある場合は、それをアンケート項目にしてもよい。

- 不快は快がわかって初めて認識されるので、「ふれあいの心地よさ」について、はじめに確認する。

- ふれあい自体を悪いことだと思わせないように注意する。

- 「イヤなときあった？」と問い返ししながら、自分の気持ちが言えないときもあることに気づかせるとよい。

- 動画を途中まで視聴する。いろんなキャラクターにふれて、イヤだと思う、思わない、どちらの感受性の子にも共感できるようにする。

- 導入時に「イヤだった」という子どもがいない場合、動画内のみーの気持ちに焦点を当てる。

- 動画の要素をヒントに対話を展開する。

- 「心のアラーム」という共通言語をもつことで、その後の議論が散漫になることを防ぐ。

- まずは、自分の気持ちに気づけることを重視し、気づけたことを称賛する。

- 「心のアラーム」が鳴った時の対応は、一律ではないことを認識させる。

- 自分と違う意見について、関心をもって対話するように促す。

- 「相手が怖そう」「伝えたら怒られそう」などの理由で伝えられない時は逃げる、助けを呼ぶ、安心できるおとなに話すこと。もしも、それができなくても自分が悪いわけではないことを補足する。

- 事後の活動として、決めた目標を実行できるような声かけを行っていくとよい。